

要注意！「できる人」ばかりに
頼っていませんか？



先日、ある経営者の方とお話したとき、
こんな言葉を耳にしました。

「仕事は結局、できる人に集まってしまうんです。」

「安心して任せられるから。」

「早いから。」

「失敗が少ないから。」

そう考えるのは、決して間違いではありません。
むしろ、忙しい現場では自然な判断です。

しかし、その状態が続くと、
少しずつ組織の景色が変わっていきます。

できる人はさらに忙しくなり、
経験の浅い社員は挑戦する機会を失う。

気づけば、
「あの人がいないと仕事が回らない」状態に
なってしまうのです。

社員が育たないから任せられないのか。
それとも、任せ方そのものに原因があるのか。

もし、その視点を少し変えるだけで
未来が変わるとしたら――？

気になる続きは裏面で…

今回のスタッフからのコメント

お
題

はまっていることは？

アドベンチャーリンク
ファシリテーター

石井 さよさあん



私の楽しみは、月2回の「ゴルフ」です。
高校時代の同級生や会社の同期メンバーと、ワイワイ
回っています。
最近は白ティー（男性のレギュラー）から打っています。
ドライバーで飛ばすのが何より楽しみ。
練習も行かないけれど、皆とおしゃべりしながらのゴルフは
ほんと気分転換になります。目標は常に100を切ること。
（練習もせんのによー言ってるわ、と自分でツッコミ）

今回の「業界用語」

コンフォートゾーン

コンフォートゾーンとは、
「慣れていて、安心して過ごせる範囲」のこと。

「いつもと同じやり方」「得意な仕事だけ」など、安心できる
一方で、そこに留まり続けると成長の機会が少なくなることも
あります。

大きな挑戦をする必要はありません。
いつもより一歩前が出る、自分の意見を伝えてみる。
そんな「ちょっとだけドキドキする挑戦」が、安心できる範囲
を広げ、成長につながっていきます。

INFORMATION

株式会社アドベンチャーリンク



アドベンチャーリンク
Adventure Link

大阪府大阪市都島区片町1丁目5-13
大手前センチュリービル4階 GOTOHERO内
TEL : 080-6159-9408
MAIL : info@adventure-link.com



HPはこちらの
QRコードから

もちろん、「できる人」に仕事を
任せること自体は悪いことではありません。

問題は、その人しか経験できない状態が続くことです。

人は、任された仕事の中で考え、失敗し、
工夫しながら成長していきます。

だからこそ私たちは、「仕事を振る」のではなく、
「成長する機会をつくる」ことを大切にしています。

少し難しい仕事を任せてみる。
すぐに答えを教えるのではなく、一緒に考えてみる。
結果だけではなく、挑戦した姿勢を認める。

そんな小さな積み重ねが、
「できる人」だけに頼らない組織を育てていきます。

効率を優先することも大切です。

でも、ときには未来の組織のために、
「誰に任せるか」ではなく、「誰を育てるか」
という視点で仕事を見直してみませんか。

前田ゴマの 最近思ったこと

「一緒に学ぶ」って、やっぱりいい

先日、「ワークを『楽しかった』で終わらせない」
ファシリテーション講座を開催しました。
今回は、いつも一緒に現場に入ってくれている講師陣
に加え、社外の方も参加するオープンイベント。
僕自身も講師ではなく、参加者として学びました。

そこで改めて感じたのが、同じ体験をして、同じ言葉で
語れることの大切さです。

企業研修でも「共通言語ができました」という声を
よくいただきます。

「あの時のワークで話していたことだね」
そんな共通の体験や言葉があるだけで、普段の対話は
ぐっと深くなります。

そして今回は、いつも伝えていることを、自分ではない
誰かから学ぶ価値も実感しました。
一緒に働く仲間と、一緒に学び、価値を届けていく。
アドベンチャーリンクとしても、また一歩前に進めた
ように感じた一日でした。

研修プログラムの紹介

体験型チームビルディング研修

「もっと社員同士で協力してほしい」
「会議で意見が出ない」「主体的に動いてほしい」

そんなチームにおすすめなのが、
体験型チームビルディング研修です。
ゲームやチーム課題を通して、普段の「伝え方」「聞き方」
「関わり方」に気づきます。
体験を振り返りながら、自分たちで課題や改善点を考え、
日々の行動変化につなげます。
楽しいのに、深い。
体験からチームの変化を生み出す研修です。



代表 Xとnote 頑張っています

ぜひフォローをお願いいたします！



no+e



成長への問いかけ

「仕事を回す」だけで 終わっていませんか？

忙しい毎日だからこそ、効率を優先する場面もあります。
それでも、ときには「誰を育てるための仕事なのか」
という視点で仕事を見直してみることが、
未来の組織づくりにつながるのではないのでしょうか。